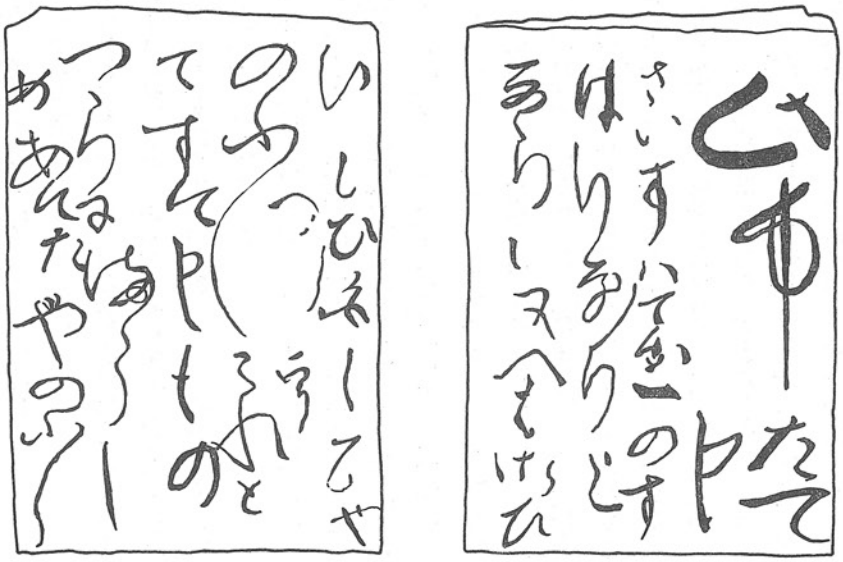


(2)

静岡・居倉（いぐら）遺跡

1 所在地　静岡県島田市野田
2 調査期間　一九八六年（昭61）七月～八月
3 発掘機関　島田市教育委員会
4 調査担当者　澁谷昌彦・坂巻隆一
5 遺跡の種類　居館跡
6 遺跡の年代　平安時代後期～鎌倉時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

島田市は、古代から近世にかけて、大井川の流れにより、その右岸の初倉地区は遠江国、左岸の島田宿、野田地区等は駿河国に行政区分されていたが、居倉遺跡は、駿河国に属している。

遺跡は島田市街地より北方へ二・五kmの野田地区に位置し、城山東側の大津谷川河床に立地している。この野田地域は、古くから大津谷川・尾川の土砂の堆積による後背湿地が発達して

おり、平安時代後半より現在に至るまで、約三mの土砂が堆積している。また、遺跡から北方約四kmに、平安時代に創建されたと考えられる天台宗の名刹智満寺が存在している。

当遺跡の発掘調査は、大津谷川左岸堤防の改修工事と、河床面の掘り下げ工事に伴うものである。調査の結果、上層より鎌倉時代の陶器、下層より平安時代末期の灰釉陶器が遺物収納箱約一〇〇箱分、墨書陶器が一一四八点出土した。

墨書の内容は「尺」が三五九点（うち朱書三六点）、「馬」一一一点、「珍」八点、「財」三点、「田」二点、「上」二点、「酒坏」「大富」「二万」「寿」「人」「定」（朱書）「常」「岑」「文」「豊加」「青」「巳」「勝部」「□石」「壬」（朱書）「共」「富」「様」「在」「生」「東」「仙」「加万」「体□」各一点であり、他にヘラ書で、「尺」「川□」等がある。この他に緑釉陶器一四六点、陶硯、陶鈴、土師器、題籤軸一五点、木簡四点、木簡状木片六点、木製品一〇〇点、貨幣（神功開宝一点、延喜通宝三点）、鉄製品等が出土している。木簡や題籤軸は、灰釉陶器、木製品と共に平安時代末の層より出土している。

また、居倉遺跡の成立時期は出土陶器より、一〇世紀の第Ⅰ四半期と考えている。周辺遺跡としては、居倉遺跡から西南方向に一・七km離れて、旗指（はっさし）古窯跡群が存在し、灰釉陶器の生産を行っている。居倉遺跡の調査では、旗指古窯で生産された陶器の集積地的な様相を示す陶器類が出土しており、船便で大津谷川―大井川―駿河湾に出たものと考えられる。さて、志太郡衙跡である御子ケ谷遺跡、秋合遺跡は、居倉遺跡より東方に直線距離で約六km離れている。志太郡衙が九世紀代に郡衙の中枢部としての機能を失うのに対し、居倉遺跡の成立時期が一〇世紀の第Ⅰ四半期であるから、志太郡衙の衰退期に居倉遺跡が成立したことになる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 源□佃領代米五　(83)×13×3　081

(2) 安□□□□　(117)×(26)×2　081

(3) 「□大津□　(113)×(46)×2　019

(4) ・「〈信□□□□□□□」
・「〈□□□　□□□」　163×20×4　032

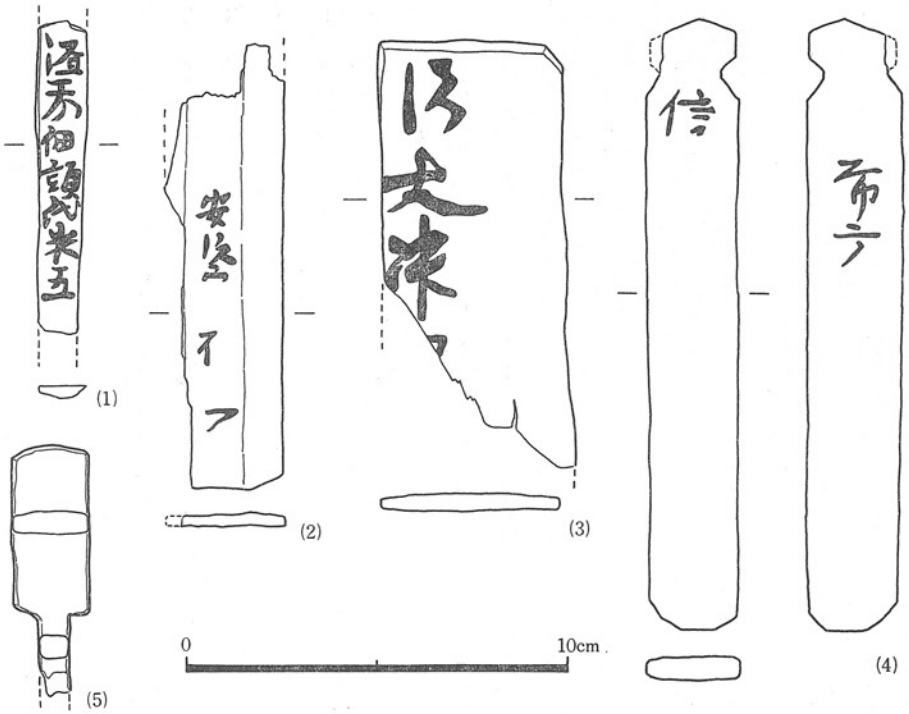
(5) 「□」（題籤軸）　(64)×20×6　061

(3)の「大津」は志太郡内の大津郷と関係があるか。現在も居倉遺跡の所在する地域を「大津」と呼んでいるので、この遺跡は大津郷の中心的地域にあったものと考えられる。

9 関係文献

島田市教育委員会『居倉遺跡発掘調査報告書』（一九八七年）

（澁谷昌彦）



木簡研究 第七号

巻頭言――刀筆の吏――　土田直鎮
一九八四年出土の木簡
概要　平城宮・京跡　平城京跡　奈良女子大学構内遺跡　法貴寺遺跡　藤原宮跡　長岡京跡(1)　長岡京跡(2)　長岡京跡(3)　百々遺跡　今里遺跡　平安京左京八条三坊二町　平安京左京九条二坊十三町　水走遺跡　西ノ辻遺跡(1)　西ノ辻遺跡(2)　坪井遺跡　忍ヶ丘駅前遺跡　普賢寺遺跡　大庭北遺跡　軽里遺跡　堺環濠都市遺跡　池田寺遺跡　道場塩田遺跡　新方遺跡　川岸遺跡　倉見遺跡　前東代遺跡　赤堀城跡　朝日西遺跡　清洲城下町遺跡　沓掛城跡　吉田城三ノ丸跡　坂尻遺跡　秋合遺跡　郡遺跡　神明原・元宮川遺跡　北条泰時・時頼邸跡　千葉地遺跡　千葉地東遺跡　蔵屋敷遺跡　小敷田遺跡　大津城跡　上永原遺跡　野々宮遺跡　野瀬遺跡　小谷城城下町遺跡　尾上遺跡　北方田中遺跡　永田遺跡　膳棚B遺跡　御前清水遺跡　仙台城三ノ丸跡　市川橋遺跡　多賀城跡　比爪館遺跡　大浦遺跡　払田柵跡　馬場屋敷遺跡　百間川当麻遺跡　鹿田遺跡　草戸千軒町遺跡　西庄Ⅱ遺跡　井上薬師堂遺跡　荒堅目遺跡
一九七七年以前出土の木簡（七）
平城宮跡（第三九次）　早川庄八
公式様文書と文書木簡　大庭　脩
中国における最近の漢簡研究　田中　琢
英国出土のローマ木簡　石上英一
木簡史料紹介―牛札―
彙報

頒価　三八〇〇円　〒四〇〇円